



Oracle® Hyperion Shared Services

リリース 11.1.2.3

Accessibility Guide

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

はじめに	2
Shared Services Console のアクセシビリティの有効化	2
Shared Services Console アクセシビリティ機能	3
Shared Services Console のキーボード同等操作	4

はじめに

このガイドでは、Oracle Hyperion Shared Services Console のアクセシビリティ機能について説明します。

オラクルのお客様は、My Oracle Support を通じて電子サポートを得ることができます。詳細は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を、また聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

オラクル社のアクセシビリティに関する詳細は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Shared Services Console のアクセシビリティの有効化

サブトピック

- [Shared Services Console のアクセシビリティ・モードでの表示](#)
- [JAWS\(R\)画面読取りソフトウェアの使用](#)

Shared Services Console のアクセシビリティ・モードでの表示

アクセシビリティ・モードで Shared Services Console を表示するには、`accessibilityMode=true` を Oracle Hyperion Shared Services URL に追加します。たとえば、`http://Web_server_name:port_number/interop/index.jsp?accessibilityMode=true` です。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から Shared Services Console を起動している場合は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のユーザー・プリファレンスでアクセシビリティ・モードを有効にします。

高コントラストで Shared Services Console を表示するには、`themeSelection=BpmTadpoleHc` を Shared Services URL に追加します。たとえば、`http://Web_server_name:port_number/interop/index.jsp?themeSelection=BpmTadpoleHc` です。

JAWS(R)画面読取りソフトウェアの使用

JAWS(R)画面読み取りソフトウェアを使用する場合は Internet Explorer をブラウザとして使用することをお勧めします。

Shared Services Console 内の編集可能なテキスト・フィールドのコンテンツを JAWS で読み取れるようにするため、仮想 PC カーソル・モードを有効にします。次の

手順では、JAWS 仮想 PC カーソル・モードを有効にする 2 つの方法が示されています。

注： 次の手順は、(accessibilityMode=true を Oracle Hyperion Shared Services URL に追加することで)Shared Services Console をアクセシビリティ・モードで表示している場合のみ、使用できます。

▶ JAWS Configuration Manager で仮想 PC カーソルを有効にするには:

- 1 JAWS の「Utilities」メニューから、「Configuration Manager」を選択します。
- 2 「Set Options」メニューから、「Advanced Options」を選択します。
- 3 「Use Virtual PC Cursor」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

▶ キーボード・ショートカットを使用して JAWS 仮想 PC カーソルの有効/無効を切り替えるには、数字キー・パッドの[+](プラス)キーを押します。

注意 仮想 PC カーソル・モードにしている間、その他の Shared Services Console コンポーネントは機能しません(たとえば、ユーザーはプロビジョニング・ツリーを走査できません)。その他のコンポーネントを操作するには、テキスト・フィールドのコンテンツを読み取ってから仮想 PC カーソル・モードを無効にする必要があります。したがって、キーボード同等操作を使用して、仮想 PC カーソル・モードの有効/無効を切り替えることをお勧めします。

Shared Services Console アクセシビリティ機能

- 次のアーティファクトの作成および変更で使用される画面では、高コントラスト・モードはサポートされていません。
 - ユーザー
 - グループ
 - 役割
 - 委任リスト
- JAWS スクリーン・リーダー・ソフトウェアでは、各ヘルプ・トピックのタイトルと第 1 段落のみが読み上げられます。第 2 段落以降のテキストはすべて省略されます。

Shared Services Console のキーボード同等操作

サブトピック

- [グローバル・キーボード同等操作](#)
- [メニュー](#)
- [管理タスク](#)
- [プロビジョニング・タスク](#)
- [アプリケーション管理タスク](#)

この項では、次に対するキーボード同等操作について説明します:

- インタフェース・コンポーネント
- メニュー・アイテム
- Shared Services Console で完了したタスク

キーボード同等操作を使用する場合は、次の点に注意してください:

- 一般的に、メニュー・タイトル、メニュー・アイテム、またはボタンやその他のコンポーネントのテキストに表示される下線付き文字はニーモニックと呼ばれています。ニーモニックはそれ自体がわかりやすいため、これらのキーの詳しい説明は提供されていません。ただし、繰り返し使用されるニーモニックがあることは覚えておいてください。たとえば、「ファイル」メニューでは、下線のニーモニック D が「削除」メニュー・アイテムと「非アクティブにする」メニュー・アイテムの両方に使用されています。この場合、1 回目の [D] で削除されるアイテムがハイライト表示されます。[Enter] を押して「削除」を実行するか、再度 [D] を押して「非アクティブにする」 ボタンをハイライト表示し、[Enter] を押して「非アクティブにする」を実行します。
- Firefox のリリース 1.5 以降のブラウザを使用している場合は、[Alt] のかわりに [Alt]+[Shift] を使用します。

グローバル・キーボード同等操作

次のグローバル・キーボード同等操作を使用して、Shared Services Console をナビゲートします。

表 1 グローバル・キーボード同等操作

キー	アクション
F10	メニュー・バーの最初のメニューをフォーカスしてアクティブにします。
[Ctrl]+[0]	ビュー・ペインに一覧表示された最初のオブジェクトをフォーカスします。
[Ctrl]+[G]	タスク・タブをフォーカスします。フォーカスは現在のタスク・タブに移動します。
[Ctrl]+[T]	ツールバーをフォーカスします。フォーカスがツールバーに移動します。[Tab] を使用すると個々のボタンを選択できます。
[Ctrl]+[Y]	コンテンツ領域の現在のタスク・タブにフォーカスします。
[Ctrl]+[F4]	(「参照」タブ以外の)現在のタブを閉じます。

キー	アクション
[Space]	ビュー・ペインで選択済のオブジェクトをアクティブにします。
F9	ビュー・ペインで選択済のオブジェクトのショートカット・メニューを表示します。
[Ctrl]+[F6]	タスク・タブからページ・フレームへフォーカスを移します。

メニュー

Shared Services Console が表示された際にこれらのキーボード同等操作を使用します。

注： メニューのキーボード同等操作は状況依存です。つまり、タスクのタイプごとに使用可能なメニュー・オプションが異なります。

表 2 「ファイル」メニュー

キー	メニュー・アイテム
[Ctrl]+[N]	新規
[Ctrl]+[O]	開く
[Ctrl]+[Shift]+[R]	プロパティ
[Ctrl]+[D]または[Delete]	オブジェクトの削除
[Ctrl]+[E]	アクティブにする
[Ctrl]+[D]	非アクティブにする

表 3 「表示」メニュー

キー	メニュー・アイテム
[Ctrl]+[Alt]+[O]	マストヘッダの表示
[Ctrl]+[F]	Oracle Hyperion Shared Services Console のリフレッシュ
[Ctrl]+[X]	エクスプローラ

表 4 「管理」メニュー

キー	メニュー・アイテム
[Ctrl]+[Shift]+[T]	プロビジョニング・レポートの表示
[Ctrl]+[Shift]+[B]	セキュリティ・レポート/実行者
[Ctrl]+[Shift]+[O]	セキュリティ・レポート/実行対象
[Ctrl]+[Shift]+[V]	プロビジョニング
[Ctrl]+[Shift]+[D]	プロビジョニング解除

キー	メニュー・アイテム
[Ctrl]+[L]	アプリケーションの削除
[Ctrl]+[U]	監査レポート
[Ctrl]+[P]	構成レポート
[Ctrl]+[R]	監査の構成

注：「監査レポート」の下にある「セキュリティ・レポート」、「アーティファクト・レポート」および「構成レポート」のサブメニュー・アイテムにアクセスするには、下矢印キーを使用して「監査レポート」をハイライト表示してから、右矢印キーを押してサブメニュー・アイテムを表示します。各レポートを起動するには、[S](セキュリティ・レポート)、[F](アーティファクト・レポート)、または[P](構成レポート)を押します。

管理タスク

管理タスクを実行する際にこれらのキーボード同等操作を使用します。

表 5 「移行オプション」タブ

キー	アクション
[Alt]+[L]	閉じる
[Alt]+[V]	保存

表 6 「ユーザー・ディレクトリの構成: プロバイダ構成」タブ

キー	アクション
[Alt]+[W]	新規
[Alt]+[D]	編集
[Alt]+[E]	削除
[Alt]+[P]	上へ移動
[Alt]+[M]	下へ移動
[Alt]+[U]	含む
[Alt]+[X]	除外
[Alt]+[T]	テスト

表 7 監査構成ウィンドウ

キー	アクション
[Alt]+[P]	削除

表 8 監査レポート

キー	アクション
[Alt]+[E]	レポートの表示
[Alt]+[X]	エクスポート

表 9 「ユーザーまたはグループの選択」画面

キー	アクション
[Alt]+[E]	すべて選択
[Alt]+[T]	選択
[Alt]+[L]	閉じる
[Alt]+[R]	検索

プロビジョニング・タスク

ユーザー、グループ、タスクまたは委任リストをプロビジョニングする際にこれらのキーボード同等操作を使用します。

表 10 ユーザーのプロビジョニング

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	新規
[Ctrl]+[Shift]+[R]	プロパティ
削除	削除
[Ctrl]+[E]、[Enter]	アクティブにする
[Ctrl]+[D]、[Enter]	非アクティブにする
[Ctrl]+[Shift]+[T]	プロビジョニング・レポートの表示
[Ctrl]+[Shift]+[B]	セキュリティ・レポート/実行者
[Ctrl]+[Shift]+[O]	セキュリティ・レポート/実行対象
[Ctrl]+[Shift]+[V]	プロビジョニング
[Ctrl]+[Shift]+[D]	プロビジョニング解除

表 11 グループのプロビジョニング

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	新規
[Ctrl]+[Shift]+[R]	プロパティ

キー	アクション
[Delete]	削除
[Ctrl]+[Shift]+[O]	セキュリティ・レポート/実行対象
[Ctrl]+[Shift]+[V]	プロビジョニング
[Ctrl]+[Shift]+[D]	プロビジョニング解除

表 12 役割のプロビジョニング

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	新規
[Ctrl]+[Shift]+[R]	プロパティ
[Delete]	削除
[Ctrl]+[Shift]+[T]	プロビジョニング・レポートの表示

表 13 委任リストのプロビジョニング

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	新規
[Ctrl]+[Shift]+[R]	プロパティ
[Delete]	削除
[Ctrl]+[Shift]+[T]	委任されたレポートの表示

アプリケーション管理タスク

アプリケーション・グループの処理をする際にこれらのキーボード同等操作を使用します。

表 14 アプリケーション管理タスク

キー	アクション
[Ctrl]+[N]	新規アプリケーションの作成
[Ctrl]+[D]	アプリケーションの削除
[Ctrl]+[O]	開く
[Ctrl]+[D]	削除
[Ctrl]+[U]	監査レポート
[Ctrl]+[P]	レポートの構成
[Ctrl]+[R]	監査の構成

キー	アクション
[Ctrl]+[M]	移動
[Ctrl]+[I]	プロビジョニングのコピー
[Ctrl]+[X]	エクスプローラ

表 15 「アーティファクト・リスト」タブ

キー	アクション
[Alt]+[T]	「アーティファクト・リスト」ボタン
[Alt]+[E]	「選択済アーティファクト」ボタン
[Alt]+[S]	「アーティファクトの検索」ボタン
[Alt]+[C]	「すべて選択」 / 「選択項目の消去」ボタン
[Alt]+[U]	「監査レポートの表示」ボタン
[Alt]+[R]	「エクスポート」ボタン
[Alt]+[L]	閉じる

表 16 「新規アプリケーション・グループ/アプリケーション・グループの変更」画面

キー	アクション
[Alt]+[I]	終了
[Alt]+[L]	閉じる
[Alt]+[U]	リストの更新

表 17 「エクスポート」ダイアログ・ボックス

キー	アクション
[Alt]+[E]	エクスポート
[Alt]+[L]	閉じる

表 18 「インポート」ダイアログ・ボックス

キー	アクション
[Alt]+[I]	インポート
[Alt]+[L]	閉じる

表 19 「移動」タブ

キー	アクション
[Alt]+[R]	検索

キー	アクション
[Alt]+[Y]	すべて表示

表 20 「プロビジョニングのコピー」タブ

キー	アクション
[Alt]+[R]	検索
[Alt]+[Y]	すべて表示

表 21 移行ステータス・レポートの削除

キー	アクション
[Alt]+[I]	終了

表 22 「削除」画面

キー	アクション
[Alt]+[E]	削除

表 23 移行ステータス・レポート

キー	アクション
[Alt]+[R]	リフレッシュ

著作権情報

Shared Services Accessibility Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2005, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。